

謝 辞

被表彰者代表

河 本 健 二



ただいま表彰いただきました河本でございます。

僭越ではございますが、ご指名でございますので、表彰頂きました者を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

私と知財協の関係は、知財マンとしては遅く、小職が弁理士資格を取り、そろそろ会社の知財業務にも飽きが来ている頃に特許委員会に参加させて頂いたことから始まります。その時の状況を鮮明に覚えているのは、大きな刺激を受けたからにほかなりません。

先輩の方々は知識に詳しく、実務を中心にこなしていた私には大変まぶしいばかりの方が多く、一方同期で特許委員会に入った同年代のメンバーとは、大変馬が合いました。同期のメンバーは良い言い方をすれば物怖じせず話ができる人が多く、悪く言うと先輩から見て生意気なメンバーで、疑問があると全体会議でも質問をするメンバーでした。

それがお互いを刺激し、大いに勉強もしました。こんなに会社を超えて楽しめる世界があるのかと思わず小躍りすると共にすっかり知財協会のファンになってしまいました。

なぜこのような話をするかと申しますと、1年ほど前に日産自動車の知財部よりカルソニックカンセイという関連会社に移り、今は知財部以外に5つの先行開発部署を見ております。開発から知財に転身された方は多いと思いますが、知財より開発に転身したケースはあまり多くないと思います。現在のビジネス環境では協調できる部分と競争する部分を峻別して、なるべく協調できる領域はお互いの情報を出して、効率的な開発を進めるようにはしていますが、やはり先行開発は秘匿の部分も多く協調領域は限られています。

知財の世界を知ったものから改めて知財を少し外から眺めますと、知財にはなんと多くの協調領域があるのかに驚かされます。知財制度というプロトコルがグローバルで基本的に同じといったプラットフォームの大きな枠組みから、実務ベースで言うと、例えば材料の素材メーカーのお付き合いでは、開発ではやはり売り買いのビジネス関係が主になりますが、知財では物質特許やパラメーター特許の深い議論もできます。

また、人財育成でも業種が違って同じような問題を持っており、知らず知らずに話をするにつけ距離が縮まり、大学以来の友を得ることを経験した方も多いと思います。

当時の特許委員会活動では医薬系の知財担当が昼の知財活動を主に担当し、小職のような機械や電気知財担当はトンカチチームと称し、主に夜の知財活動に力を注いでいました。

私たちが特許委員会の合同合宿の翌日にレンタカーを借り、泊りでよく温泉に出かけ、夜遅くまで祝杯をあげました。そのメンバーとはいまでも良き友です。

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

このように恵まれた環境にいることを皆さんも大いに享受して頂きたいと思います。ここでのネットワークは知財マンだけでなく、人としても皆さんの大きな財産になると思います。

もう1つお話ししておきたいことは、皆様は知財業務を通して発明の本質を見極めるように何度も訓練を受けることで、枝葉末節をそぎ落としたロジカル思考を身につけていることです。

また、多くの方が指摘されているように、知財協会の活動は上下関係もないボランティア活動であり、このようなボランティア活動で成果を出すためには、リーダーの目的達成の強い気持ちだけではなく、同じ目的に共感してもらえるメンバーを、チームが10人いれば、3人作ることの重要性を学びました。さらに、メンバーの方に気持ち良く協力いただくためには、メンバーへの気配りや人間的な魅力も必要になります。このようなことは上下関係のはっきりしている会社生活ではなかなか身につくものではありません。

4年前に知財協会の理事長のチャンスを受け、1年間大役を果たせたことは、私の誇りと自信の1つです。このロジカルな思考と集団のベクトルを合わせるスキルを身につけることができたことが、現在の私の業務にどれだけ役に立っているか言葉にはできません。

先行開発自体の経験はそんなになくても、程度の差はあるでしょうが、開発と同一目線で本質的な議論を交わすことができるようになったのは、知財協会のおかげと大変感謝しております。

以上、思いつくままお話しをいたしました。皆さんに本日再会でき大変うれしく思っています。最後に皆様の会社と知財協会の益々の発展を祈念しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

